

連載

【試論】民族総福音化への道 (6)
先ず早天祈祷から⑥

手束 正昭

副総裁兼事務局長

(高砂教会牧師)

六月四日に行われた日本民族総福音化運動協議会(略称・民福協)の理事会に於いて、私は一つの提案をし、了承して頂きました。それは、早天祈祷会で有名な韓国の明声(ミヨンソン)教会の協力のもと、毎年「早天祈祷ツアー」なるものを行い、日本のクリスチャン達を明声教会の早天祈祷会に参加して貰うことよって、早天祈祷の素晴らしさを体験して貰うことにより、日本でも早天祈祷の運動を起こそうとするものです。

この切っ掛けとなったのは、昨年三月に東京ブロック長の菅野直基師がミヨンソン教会の協力のもと主催して行った「ミヨンソン教会早天祈祷ツアー」でした。急な企てであったので、民福協全体としては関わる事ができませんでしたが、当教会から一組の若い夫婦が参加することができ、大変恵まれて帰って参りましたので、ここにその証の一端を紹介し、来年から毎年行われるであろう民福協主催の「ミヨンソン教会早天祈祷ツアー」への参加を促したいと思います。

韓国早天祈祷ツアーに参加して

高砂教会々員 霜浦大輔

韓国に到着した翌日から、私達はミヨンソン教会の五時三〇分からの早天祈祷会第二部に出席しました。早天祈祷会は毎朝四時三〇分から始

まり、全部で五部、計三万人以上が集まり行われます。これだけの人が集まりますので周辺道路は早朝四時前から大渋滞です。とにかくスケールの大きさに驚く事ばかりでした。この時期の早天祈祷会は特別な内容になり、どちらかと言えば早天礼拝に近いものとなります。地響きが起こるような祈りの時を想像していた私は、少し期待外れになってしまいました。しかし、一度に六、七千人の祈りですから整然としているはずがありません。主の臨在を感じるには十分過ぎる程のものでした。高砂教会の早天祈祷会への出席が少し情性気味になっていた私にとって、改めて心開かれる瞬間になりました。

早天の祈りが大切だと分かっていたても、これから送る一日への心配、悩みなどの自分の関心事に既に心は占領されていて、「二日の始まりの心に何をに入れるか」と言う大切な事を忘れていました。朝一番、心に何を入れるかと言うことは、その一日を決める大切な事であるのに、朝起きてまず一番にするのは、不平不満を持つこと。「しんどい」「いやだ」から始まる。もつと言えば、クリスチャンになり、最初に早天祈祷会に出席しようと思った理由は、「朝、しんどいけれど、この願いを神様に聞いて欲しいから早天祈祷会に行ってみよう」という不満に始まる肉欲的な欲求からでした。

けれども、韓国の早天祈祷会に出

席されている人々は、この朝、主を迎え入れている様に思えました。充実に満ちた顔と言いか、輝きが明らかに私とは違っていました。一日の最初の心の中に主を迎え入れ、自分を整えて頂き、主を中心とした一日を送る準備を、この早天祈祷会で行っている様に思えました。

韓国では、反日教育を幼い頃から受ける。政治レベルでは、日本との間に絶えず摩擦が起こっている。二国間の会談ともなれば、必ずと言って良いほど出されるのが、過去の加害、被害に関する内容。こうした中で、私も韓国という国に対して一線を引いていました。しかし、韓国での四日間、韓国の為に祈り、そして私達の日本の為に共に祈り、共に讚美し同じ主を見上げて時を過ごしている間に、自分の中で固まっていたものが音を立てて壊れて行き、新しいものが生まれてくる、そんな新鮮な気持ちを感じることができました。

過去の反省をなす事は大切だと思います。しかしそろそろ、その反省をふまえて前進して行く時期ではないでしょうか。なぜなら私達は、主にあつて主に一つなのだから……

これまでの私の人生観を変化させ前進させて下さった主、その具体的な方法を示して下さい。早天祈祷会という主との時間を、これからも大切にしていきたいと強く思わされたこの旅でした。